



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO

“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です



日進月歩

【当法人業務執行理事】

国家公務員共済組合連合会 立川病院
矢島 賢 [医師]

皆さん、新年あけましておめでとうございます。糖尿病の診療に従事する皆様にとって、新しい年が始まりました。2023年もたくさんの挑戦と成長がありました。一緒に乗り越えてきたことに心から感謝申し上げます。

糖尿病は、私たちが日々直面する課題の一つです。その複雑性や深刻さは決して軽視できません。しかし、私たちの仕事において、この病気に立ち向かい、患者さんたちの健康と生活の質を向上させることに情熱を注いできました。この情熱こそが、私たちが共有する貴重な資産です。新しい年を迎え、未来に向けて歩を進めるにあたり、私たちの使命と責任を再確認しましょう。糖尿病の治療や管理において、科学や技術は日々進歩しています。それに伴い、私たちの知識やスキルも進化し続ける必要があります。常に最新の情報にアクセスし、その知識を実践に活かしていくことが、患者さんたちに最高のケアを提供する鍵となるでしょう。

また、一人ひとりの患者さんが抱える状況やニーズは異なります。そのため、彼らの個々の状況をよく理解し、個別に適したケアを提供することが欠かせません。そして、その際には患者さんとの信頼関係を築き、共に目標を設定し、協力していくことが肝要です。さらに、私たちが団結し、知識を共有し、経験を積み重ねることも重要です。同僚や他の医療従事者と協力し、チームとして連携し合うことで、より良い結果を生むことができます。お互いに学び合い、成長し合うことで、より強固な医療コミュニティを築いていきましょう。

2024年は、新たなチャレンジや機会に満ちた一年となることでしょう。私たちの使命は、糖尿病という難しい疾患に立ち向かいながら、患者さんたちの健康と幸福を支えることです。一緒に励まし合い、知恵を結集し、効果的な治療と管理を追求しましょう。今年も皆さんと共に歩んでいけることを心より楽しみにしています。2024年も、共に努力し、共に成長し、共に輝く一年となりますように。健康で充実した新年をお迎えください。ありがとうございます。

実はこれChat GPT 3.5を使って作成したものをそのまま載せています。「対象は糖尿病の診療に従事する方です。2024年に向けて共に頑張っていこうという意図を伝えたいです。」という情報を入力したらわずか数秒で返信されました。すごいですね。今年1年でAIはどれほど進化するのでしょうか。



読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LChttps://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10259184885 DE)は、更新のために5年間において50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

問題 ● 次の文章を読んで以下の質問に答えてください。

60歳、男性。独居。今回初めて2型糖尿病と診断され教育入院。1,800kcalの食事療法と運動療法、GLP-1受容体作動薬とSGLT2阻害薬が開始され、2週間後には5kg減量し退院。入院前の自炊経験は少なかったが、退院後、毎食の食材を弁当箱に詰めて決まった量を食べるように工夫し、食事療法を継続。退院1か月後の受診ではさらに10kg減量しており、主治医より減量し過ぎを指摘された。持参した弁当箱は片手に収まるほどの小さいサイズだった。

入院時所見：身長 170cm、体重 100kg、空腹時血糖値 186mg/dL、HbA1c 9.6%

合併症：神経障害なし、網膜症なし、腎症第1期

この患者のセルフケア行動への支援において誤っているのはどれか、2つ選べ。

1. 自分なりに食事療法を工夫していることを称賛する
2. 弁当箱を使わないように指導する
3. 食事療法・運動療法・薬物療法への考えや思いを聴く
4. 主治医と同様に減量のし過ぎを注意して認識を改めさせる
5. 現在の食事の内容について詳しく聞く



報告

西東京CDEの会 第21回例会

日時: 令和5年9月30日(土)
オンライン

[当法人理事] 公立昭和病院 櫻井 勉 [臨床検査技師]

令和5年9月30日(土)に「西東京CDEの会 第21回例会」がZoomにて開催されました。今回は糖尿病治療薬として使用が開始された「SGLT2阻害薬」が、適応拡大によって糖尿病患者さん以外にも広く使用されることが多くなったことを踏まえ、SGLT2阻害薬にスポットをあて「SGLT2阻害薬を深掘りしよう」と題した例会を開催しました。

始めに武蔵野赤十字病院の杉山 徹先生に「SGLT2阻害薬の総まとめ」と題して講演していただき、心不全患者さんへの使用や腎保護作用を目的とした使用など幅広くお話しいただきました。その後、理学療法士・管理栄養士・臨床検査技師・薬剤師・看護師がそれぞれの職種から見たSGLT2阻害薬についてお話しいただきました。とても良い内容だったと思いますが、思ったより参加者が少なく開催PRの方法や期間を再考させられた例会でした。



報告

第40回武蔵野糖尿病研究会Webセミナー

日時: 令和5年10月28日(土)
場所: 武蔵野スイングビル

令和5年10月28日(土)にハイブリッド形式にて、『第40回武蔵野糖尿病研究会』が開催されました。基調講演では、かんの内科 院長 菅野 一男先生より「エビデンスを考慮した糖尿病治療薬の選択」という演題にてご講演いただきました。数多くのエビデンスや最新のトピックスを詳細にご紹介いただき、また、菅野先生の自験例をお示しいただきながら糖尿病治療薬を選択する際のポイントについて、詳しくご教示いただきました。

特別講演では、北里大学医学部 循環器内科学 主任教授 阿古 潤哉先生より「循環器内科医の目から見た糖尿病診療～経口GLP-1作動薬の位置づけと可能性を探る～」という演題にてご講演いただきました。循環器専門医としてどのような期待を持って糖尿病治療薬の選択をしているのか、ということから始まり、これまでの心血管アウトカム試験の結果から上位で選択される薬剤についてご教示いただきました。さらに、より具体的な患者背景(合併症)を例に心血管イベント抑制のエビデンスを有する薬剤の使い分けについてご講演いただきました。

当日は現地参加とオンライン参加、合わせて91名の先生方にご参加いただき、質疑応答の時間も熱心な意見交換がされ、大変有意義な会となりました。





第38回日本糖尿病合併症学会

令和5年10月20日(金)～21日(土)

岡山コンベンションセンター

〔当法人理事〕

東京医科大学八王子医療センター

大野 敦 [医師]

第38回日本糖尿病合併症学会(四方 賢一会長)は、2023年10月20日～21日の日程で、岡山コンベンションセンターを会場に開催されました。2015年11月に第30回日本糖尿病合併症学会と第21回日本糖尿病眼学会総会が名古屋で合同開催されてから両学会の共催が続いておりましたが、今年は8年ぶりに単独開催になりました。ここでは個人的に参加させていただいたプログラムを中心に、報告させていただきます。

初日は、9～10時のワークショップ1の血糖管理①の座長を担当させていただきました。発表内容も非常に示唆に富むものばかりでしたが、印象的であったのが4演題の演者には福岡大学の川浪教授と比較的最近八王子地区で開催された講演会で特別講演を担当していただいた倉敷と旭川の基幹病院の部長が入っており、他にもシンポジウムで登壇される方ばかりがそろっていたセッションもありました。合併症学会のワークショップは他学会の一般演題の口演に当たりますが、以前より若手の発表が極端に減った印象を持ちました。これも若手に学会の申込や発表の準備を業務時間外で行わせにくくなっている状況を反映しているのかと思います。来年度から医師の働き方改革が進めば、この傾向はさらに顕著になるのかもしれませんが、その後は教育講演を聴きましたが、岐阜大学の矢部教授の食事療法のお話では、高齢者のたんぱく質摂取量は腎症レベルとサルコペニア・フレイルリスクとのバランスをとりながら個別に設定することや、ロイシンを多く含むような質を考慮した食事メニューを取り入れることの重要性を改めて学びました。

午後の会長講演では、我々も参加したDNETT-Japanの追跡調査の結果、当初の5年間の介入期間よりもその後の5年間の観察期間で集約的治療群における進行した腎症の進展抑制効果が有意であったことより、諦めずに集約的治療を続けたいと思いました。16時からのワークショップ15で、多摩地域の内科医における脂質異常症の検査方針/管理方針に関するアンケート調査の2演題を発表しました。このアンケートには会員の先生方にも数多く御協力いただきましたが、検査方針ではLDL-Cの測定時のFriedewald式の利用者とnon HDL-Cの利用者の割合は専門医が有意に多く、随時採血時の高TG血症の目安を175mg/dL以上とする回答が専門医で多い傾向を認めました。一方管理方針では冠動脈疾患のない糖尿病患者に薬物療法を開始するLDL-C値の目安は専門医の方が有意に低く、TGのみ高値の際の薬物療法の第一選択薬に両群で差を認めました。今後もアンケートを企画している「糖尿病治療多摩懇話会」から情報発信を続けたいと思いますので、アンケートへの御協力を引き続きお願い申し上げます。

2日目はモーニングセミナーで鹿児島での糖尿病性腎症重症化予防の取り組みを聴きましたが、連携手帳サイズの重症化予防プログラムノートやSDMカスタマイズド鹿児島の作成など実践的な取り組みが印象に残りました。誌面の制約で2日目の詳細は記載できませんが、ワークショップでも1演題15分かけるため通常の学会よりもゆっくり聴けます。2024年は10月4日～5日につくば国際会議場で開催されます。また昨年札幌で開催されました日本糖尿病眼学会総会は、杏林大学の主催で2024年6月21日～22日に赤坂で開催されます。どちらも比較的近場ですので御参加されることをお勧めします。

読んで
単位を
獲得しよう

答え **2, 4** 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説 糖尿病のセルフケアを日常生活に取り入れるということは「生活の再構築」であり、患者にとって負担の大きいことである。セルフケア実施において、医療者は患者の個人的な価値観や信念を基本に、患者の選択や決定を尊重する。患者にとって最適な自己決定ができるよう、医学的な判断を十分に説明したうえで、患者にとって何が最善かについてよく話し合うことが重要である。

1. ○
2. 弁当箱を使用し工夫されていることは賞賛すべきであり否定するものではない。但し適正な栄養量を伝える事は必要であり、適正な量について確認しながら弁当箱の大きさや利用法など話し合う。
3. ○
4. 減量した行動については賞賛すべきことであり、現在の減量方法や速度について、本人の思いを聞きながら適正な減量速度についての説明は行い、今後の計画を話し合う。
5. ○

事務局からのお知らせ



事務局への問い合わせは当法人ホームページで常時受け付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00/13:00~16:00にお電話くださいようお願いいたします。

《 2024年度 年会費納入のお知らせ 》

1月11日(木)より、2024年度年会費納入が始まります。
 会員継続される方は、ご自身のマイページにアクセスいただき、3月31日(日)までにご納入をお願いします。

*** 2024年度年会費 ***

納入期間

2024年1月11日(木)~3月31日(日)

金 額

5,000円

納入方法

マイページ「年会費納入のお願い」より



研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業 共催・後援事業 その他

◆ 第10回 西多摩・南多摩糖尿病カンファレンス

申込必要

開催日：2024年1月18日(土) 19:30~21:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

申 込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください(1/13締切)

問合せ：大正製薬㈱(担当：岩崎) TEL:090-5997-7449

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

参加費
無料オン
ライン

◆ 西東京CDEの会 第22回症例検討会

申込必要

テーマ：『家族まとめて糖尿病療養指導—子供が糖尿病といわれたら—』

開催日：2024年2月7日(水) 19:00~20:45

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 700円 / 一般 1,000円

申 込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください(1/31締切)

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

オン
ライン

◆ 糖尿病災害対策委員会 第11回医療者向けセミナー

申込必要

テーマ：『被災場所によってどのような行動をとるべきか?』

開催日：2024年3月11日(月) 19:20~21:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

申 込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください(3/11締切)

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

参加費
無料オン
ライン

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/> Email:info@cad-net.jp

編集後記



2024年の干支「甲辰」は、「遍く成長を助くる年」。それはつまり、暖かい光が大地全てのものに平等に降り注ぎ、新しいことを始めれば成功し、これまで誠実に積み上げてきたものは実を結ぶ年になるのだとか。コロナ後の私たちの生活も新たなフェーズに入り、世界に目を向ければ緊迫化する一方の世界情勢に不安は尽きないが、明るい話題が多い1年になることを祈念しつつ、さあ！上を向いて進もう。
 (広報委員 馬場 美佳子)